

建設技術研究所 正会員 ○岡藤俊一

東京工業大学 正会員 中村良夫

東京工業大学 正会員 北村真一

1 はじめに

景観のイメージは、地理的(空間的)イメージと風景イメージから成るものと考えられる。前者はK. リンチの研究に代表される都市空間の平面図的イメージの研究であり、後者は一つの風景(シーン)の透視図的イメージの研究である。特に風景のイメージ構造の研究は景観デザインにおける基本的コンセプト決定において必要で景観の様式、並びに基本的操作要素を抽出する上で重要な意味を持つものと考えられる。

2 研究の目的と構成

以上の観点から、本研究は風景のイメージの構造を明らかにしようとするものであり、河川空間を対象として、以下の課題の究明を目的としている。

(1) 風景イメージのゲシュタルト構造を明らかにする。

(2) 風景イメージの意味的構造を明らかにする。

研究の構成は、①ゲシュタルト心理学の現実の風景への適用による、風景イメージ構成要素の分析、及び②景観体験の香積により高度にイメージ化された風景のイメージ構造の分析からなり、図-1に示すとおりである。

3 風景イメージのゲシュタルト構造の分析

シーン(風景)のイメージ化のプロセスの仮想的モデルを図-2に示す。シーンはゲシュタルト的に知覚されやすい図形的まとまりの集合としてイメージ化され、さらに景観体験の香積によりそれらの要素が純化した形で記憶されるものと思われる。

3-1 風景における図形的まとまりの限界の抽出

ゲシュタルト概念の一般風景への適用を考えた場合、視角的なある境界が存在し、それが図形的まとまりを形成する重要な制約条件の一つとなり得る、という仮説を裏づけるため、星座を構成する星間の視角距離の算出と、日常生活空間における図形的対象の視角を測定した。(図-3, 4)その結果、図形的まとまりを得る視角範囲は約 10° ~ 20° あたりまでが適当であると思われる。

次に、スクリン上に映し出された多量の同心円の中から見やすいと思われるものを被験者に答えてもらうという実験により、見やすい範囲の視角として、約 10° ~ 20° という値が得られた。(図-5)これにより、見やすい範囲の視角的大小は距離と注視の程度により変動し、遠くを注視するに従い 10° に近づくものと考えられる。

3-2 河川風景イメージのスケッチ再生実験による抽出

被験者に河川風景のスライドを呈示し、それをスケッチで再生させるという実験により、河川イメージの記憶像を抽出した。各空間タイプ別の再生要

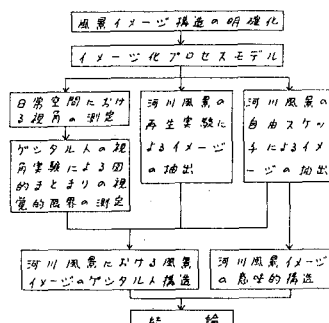


図-1 研究の構成

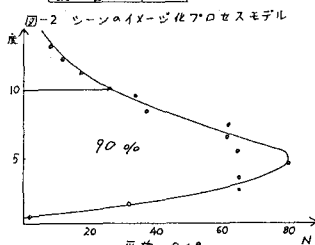
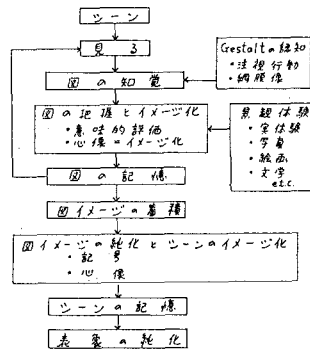


図-3 星座構成星間の視角距離

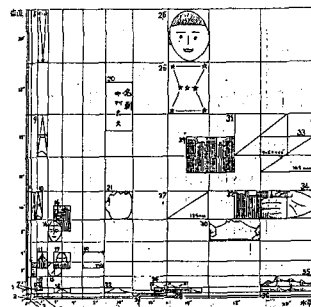


図-4 日常生活空間の図の視角

Figure 5 is a line graph showing the relationship between the distance from the observer to the target (x-axis, 0 to 400 cm) and the visual angle (y-axis, 5 to 25 degrees). Two curves are plotted: a solid line for '距離' (Distance) and a dashed line for '見やすさ' (Ease of seeing). Both curves show a decrease in value as distance increases. The solid line starts at approximately 24 degrees at 50 cm and decreases to about 11 degrees at 400 cm. The dashed line starts at approximately 22 degrees at 50 cm and decreases to about 10 degrees at 400 cm. Error bars are shown for each data point.

[illegible]

1	A	16	12	5	陳瑞A	14	12
2	B	12	10		陳瑞B	11	10
3	A	4	17	5	陳瑞C	12	10
4	B	4	17	5	陳瑞D	15	100
5	A	3	13	5	A	9	60
6	B	1	7	5	B	1	7

4-1 河川風景イメージの特徴

表-2 景観規定要因の単純集計

河川	水	8.0%	視	水	34.4%
形狀	小川	20.8	軸	斷崖	65.6
	平流	39.2		野牛	28.8
	下流	24.8		水	4.4
周圍	河	2.2	軸	上流	50.0
	山	2.2		下流	22.4
空地	空地	25.4	河	0~5	25.6
	空地	4.6		5~10	20.0
堤岸	水	30.4	巾	10~20	13.6
	水	21.6		20~30	6.4
	水	9.6		30~50	11.2
	水	28.0		50~100	8.0
	水	10.4		100~	15.2

4-2 河川景観の様式

	タイプ名	主要動	情 調	様式
A	山形 上野	岩、雪、雪の山、小島	外部的、音の多い、静かな	全木
B	中央大 野	遠く、山、石垣、草木	雄大な、美しい、静かな	全木
C	中部大 野	草木、建物、川、月夜、公園	人工的、静かな、静かな	木
D	中部大 野	町並、水、岩、雪	自然の、静かな、静かな	全木
E	中部大 野	紅葉、樹、水、雪、自然の	美しい、静かな、静かな	全木
F	中部大 野	川、石、水、人、雪	人工的、静かな、静かな	木
G	中部大 野	雪の山、雪、川、雪、木	静かな、静かな、静かな	木
H	中部大 野	木、川、雪、木、雪、木	静かな、静かな、静かな	木
I	中部大 野	木、川、雪、木、雪、木	静かな、静かな、静かな	木
J	中部大 野	木、川、雪、木、雪、木	静かな、静かな、静かな	木

本研究の結論は、以下にまとめられる。

(2) 河川風景イメージの基本的様式が抽出され、それらと特徴づける①構成要素群、②構図、③情調が明らかになった。